

平成23年6月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

(特活)沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：沖縄国際大学 NPO/NGO 論
2. 実施日時：平成 23 年 5 月 18 日 13 時 00 分～14 時 30 分
3. 実施場所：沖縄国際大学
4. 実施内容：沖縄国際大学の NPO/NGO 入門の講義において、当会の活動紹介や、沖縄県内における NGO を中心に NGO の活動、ボランティア活動等について紹介した。講義に加えて、学生からの相談に対応した。
5. 参加者人数：87 名
6. 所感及び効果

NPO に関する情報をあまり持ちえていない学生から、NPO/NGO 活動に何らかの形で従事している学生まで幅広く受講している講義で行った。団体紹介や沖縄県内の NGO を紹介する前に、30 分ほどワークショップを行い、国際協力の中での寄付をはじめ援助のあり方について考えた。受講生の多様な意見から、受講生どうし援助のあり方を改めて考える機会になったようだ。また、本授業では、受講後に行動に繋げることを目標としているが、学生の中には、沖縄県内の NGO に関心を寄せ、また国際協力への関わり方の選択肢が知識として増え、行動に移してみようという気持ちになった様子が授業後の感想から見受けられた。



ワークショップをしながら、寄付をするかしないかを話し合っている様子。



ワークショップに引き続き、国際協力に関する講話に聞き入る風景

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 横浜市立川和東小学校 人権教育研修会
2. 出張者氏名 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター・清水俊弘
3. 依頼元／主催等団体名：横浜市立川和東小学校
4. 実施日時 2011年5月19日（木）9時30分～10時30分
5. 実施場所 横浜市立川和東小学校（横浜市都筑区富士見ヶ丘21-2）
6. 実施報告
 - (1) 企画概要 人権教育の一環として、生徒たちが紛争地で暮らす子どもたちの様子を学び、その知識をもとに各自が人権をテーマにしたスピーチをする。
 - (2) 参加者 同小学校 6年生 213人、6年生の担任教員、校長先生
 - (3) 相談件数 ー
 - (4) 相談者の分類 小学校6年生、教員
 - (5) 相談内容（主な内容）
 - ① 紛争地に暮らす日本の小学校と同年代の子どもたちの様子
 - ② 上記の話をもとに人権とは何かを考える



7. 所感および効果

同校では、人権学習の効果をスピーチという形で表現させることで、自身の理解と考えを深める工夫を取り入れている。その材料として、未だ紛争状態にあるアフガニスタンやイラクで暮らす子どもたちの現状を伝え、子どもらしさという意味での共通点と、紛争状態にある社会の中で暮らす不安との違いを伝え、人が等しく安心して暮らせる社会を希求することの大切さを語った。

話の途中で、子どもたちとのやりとりで、それぞれの国のイメージや、親近感を持つることなどについて活発な受け答えがあった。今回の話を通じて、川和東小学校の子どもたちが、戦争が社会の様々なことに影響を及ぼすこと、また一度戦争状態になった大地には長年にわたってそこに暮らす人々の安全、安心を脅かす問題が残り続けることなどを理解してくれたのではないと思う。そして、これからの学習において、様々な国の人々と自分たちの暮らしとの関係を理解し、伝統・文化の違いなどをポジティブに受け止めていく素地ができれば幸いである。

出張サービス実施報告書

平成23年6月9日
(特活) 横浜 NGO 連絡会

1 団体名

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2 出張サービス企画名

平成23年度春募集 「体験談&説明会」

シニア海外ボランティア： 10時30分～12時30分

青年海外協力隊： 14時30分～16時30分

3 実施日時

平成23年5月22日 10時30分～12時30分 および 14時00分～16時00分

4 場所

JICA 横浜

5 実施内容

*会場：JICA 横浜の地階体育館。会場正面に向かって左側壁面前に JICA によるボランティア募集相談コーナーに隣接する形で NGO 相談デスクを設置。

*相談時間：プログラム進行中随時およびプログラム終了後から閉場までの時間。

*相談体制：出張相談員枠として相談員1名（小俣典之）

団体独自の応援職員1名（萩原悦子）

6 集客人数または相談対応件数

会場来場者概数： シニア海外ボランティア：約60名、 青年海外協力隊： 約80名

相談対応件数： 6件

7 所感及び効果等

東日本大震災による影響により、今期の応募のための説明会は、出張相談実施日の1回のみの実施となった。例年5回程度の複数回が開催されると状況が異なるために多数の来場が期待された。しかしながら結果的には、来場者数は合計140名程度と例年に比べると顕著に少なく、関係者の期待は裏切られた。震災による国民心理面を含めた大きな影響があるものと思われる。

NGO 相談への関心は、シニア海外ボランティア応募者よりも青年海外協力隊応募者の方が飛躍的に高いという前回同様の印象であった。青年海外協力隊応募者の中には、NGO への就職や NGO でのボランティア活動も視野に入れている人が一定数いて相談の内容もこれに関連する内容が多かった。

応募希望者ではないが、青年海外協力隊の経験者として友人の付き添いで来場した人からの相談も受けた。1年前の帰任後、小学校教員をしているが協力隊での経験が活かせておらず虚無感を感じているというものであ

った。協力隊での経験、教員であることスペイン語のスキルを活かした地域 NGO/NPO での活動があることを紹介した。

JICA ボランティア説明会での NGO 相談の実施は、相談件数自体はあまり多くはないものの、応募者に対して NGO の理解促進を進めたり、国際協力やボランティアに関する基本的な質問に NGO 相談員ならではの相談対応ができる点から意義があると思われる。本出張相談実施直後に開催した「横浜 NGO 連絡会-JICA 横浜定例会」の中で本出張相談結果について報告すると共に次回以降の JICA ボランティア説明会でも NGO 相談を実施することについての要望を出し、JICA 横浜側の了解も得た。

8 写真資料



外務省国際協力局民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施報告書

5月16日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 :国際チャリティフェスティバル2011(ウォーカーソン)

【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】

2.催しの概況:

実施日 2011年5月22日(日) 10時00分~16時00分

場 所 愛・地球博記念公園

対象者 ブースに訪れた方 50人

概 要 ウォーカーソン会場内に、NPO/NGOによる活動紹介のためのブースが設置されました。名古屋NGOセンターのブースでは、NGOとは?という質問~ボランティアしたいなど、国際協力に関心のある参加者を対象に、相談コーナーにて対応しました。

3.実施内容:



ブースでの個別相談に応じた相談内容は以下のとおり。

- ・ 東日本大震災に対して中部地域の NGO は具体的にどんなアクションをとっていますか?
- ・ NGOとは何か?
- ・ 何かボランティア活動がしたいがどうすればいいのか?
- ・ スタディツアーに今年の夏に参加したいがどうすればいいか?
- ・ ファシリテーターとは何か?
- ・ NGOはどんな活動をしているか?
- ・ 中部地域には、どんな環境 NGOがあるのか?
- ・ 中部地域の教育 NGOでボランティアしたいがどうすればいいか?

など

参加者からは、今後名古屋 NGO センターが行うイベントや NGOとは何か?などという質問が多かった。

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告書

5月18日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1.企画名 : なごや環境大学共育講座第2回「新しい暮らしの発見～東ティモールの豊かな自然～」
【形態:相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他()】

2.催しの概況:

実施日 2011年5月28日(土)13:30～16:00

場 所 フェアトレードショップオゾン2階会議室(愛知県名古屋市東区東大曾根町40-6)

対象者 学生、社会人など15名程度

概 要 国際協力や海外支援に関心はあるが、まだ詳しくは知らないという方を対象に、「新たな発見」をテーマに国際協力について説明しました。とくに、市民が国際協力に関わるうえでの心構えや東ティモールのNGOの現状について話しました。

3.実施内容:



東ティモールのNGOの現状や市民ができる国際協力について説明した。

効果と所感

東ティモールや国際協力、フェアトレードに関心がある市民15名ほどが参加した。講師の話の後、市民ができる国際協力(特に東ティモール支援)について話し合った。あまり一般的には知られていない国だが、日本との関係が深いこと、21世紀最初の独立国であること等を説明し、参加者と東ティモールとのかわりについて知っていただけるようにした。

参加人数は少なかったが、国際協力について関心が高い方が多く、個々人ができる東ティモール支援について活発に意見が交わされた。特に、元々自然豊かな国であるので、具体的にどんな農業支援ができるか等について話し合った。中部地域にも東ティモール支援NGOが複数あるので、積極的に関わっていただきたいことをお伝えした。

